

♪「崎元 譲と仲間達によるコンサート」 ぶらり訪問記♪

日時 9月23日(水・祝)
会場 ルーテル市ヶ谷センター
交通 JR 総武線「市ヶ谷」より7分、
メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷」駅5.6番出口より2分
2日目 二日にわたり開催された。

※写真:崎元譲ファンタスティック・ハーモニカより

アコーディオンに似たところのある楽器、ハーモニカのコンサートに興味を持ち、友達に誘われたのを好機と思い二日目のステージを聴きに行ってみました。崎元さんは日本のハーモニカの第一人者であり、第18回関東アコーディオン演奏交流会の特別審査員をなさったかたです。

1部は全員のアンサンブル、“日本の四季メドレー”。2部は出場者15人が四季に分かれ、おなじみの日本の童謡をピアノの伴奏で演奏。すぐれた演奏と「ルーテル市ヶ谷センター」という立派な会場のせいも、普段聴く素朴なハーモニカと音色も響きも異なって聞こえました。3部は歌で、崎元さんのきれいな奥様とお嬢様のデュオ“おぼろ月夜”と“故郷”。

休憩があり、全員のアンサンブル”Someday”のあと、5～8部まで「ハーモニカとピアノ」でお1人ずつピアノとクラシックのアンサンブル。ムードの曲が多かったのですが、モーツァルト、シューマン、バッハ(これは無伴奏)、ドビュッシー等。演奏者が舞台に入るときは手の中に隠れ、演奏中はキラキラ光るハーモニカを両手で、包み込むようにして吹かれるので、殆ど見えないような小さい楽器が、壮大なクラシックをグランドピアノと共演する様に痛く感動しました。よくわかりません

がすごく難しそうなお技術や表現力は見事ですし、息使いや躍動感もアコーディオンと共通するなあと思ひ勉強にもなりました。来年は9月19、20日だそうです。1度聴きに行かれるのもいいと思います。

K&K



■以下、崎元 譲氏のプロフィールをカメラータトウキョウ演奏家プロフィールより一部を転記

佐藤秀郎氏に師事。1967年、第1回のリサイタルを東京で開催。1970年に西ドイツのトロシゲン市立音楽院に入学しヘルムート・ヘロルドに師事した。第13回世界ハーモニカ・コンクールのソリスト部門第2位入賞を果たし一躍注目を浴びた。

崎元 譲のハーモニカ音楽に対する姿勢は、他の楽器と十分に肩を並べられるだけの表現の幅を持った音楽を演奏することである。それだけの表現の可能なスライド式のクロマティック・ハーモニカを使用し、またそれを普及させる努力を続けている。

アコーディオンの御喜美江との共演による「ポエム・ハーモニカ」は平成14年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞した。現在は各地であらゆる分野でのコンサートのほか、映画、テレビ、コマーシャル、ラジオ出演などに活躍する傍ら、後進の指導にもあたっている。また、F.I.H.Japan主催のハーモニカ・コンクールでは、第1回目(1981年)より審査員を務めている。

さらに、崎元 譲と仲間たちによるコンサートを毎年開催するほか、夏のハーモニカ・セミナーを20年以上行っている。2007年には演奏活動40周年を迎えた。

